

ペテロの手紙第一 第1章 25節

「しかし、主のことは、とこしえに変わることがない。」

しかし、の直前には草花にたとえられた人について語られている。人のはかなさを語っている。その変わり様はまるで、しおれ、枯れ、散り果てる植物のようだという。そのとおりである。それにもかかわらず人はあたかも草花の行く末と異なるかのように自信たっぷりにやっている。動植物はそのような高慢さを見せる由も無い。ただ、大地の恵みのままに生き、そして土にかえるばかりである。

しかし、のことわりは人の高慢さに一石を投じる言葉である。自信たっぷりでやっている者に一撃を加える、しかし、である。散り果てる植物のように、土にかえる動物のように、変わり果てる人の真実を目の前に突き出す、しかし、である。人がなんともし難い、しかし、の現実である。

そして、ここでの、しかし、のあとに語られるのは、他のいっさいの被造物とはまったく異なった真実を明らかにする、しかし、である。主のことは、とこしえに変わることがない。それ以外のことは壊滅する。それは、ことを発する者は変わり、朽ち果て、地のチリとなる。自信ありげに語っても、人とことは消える。しかし、変わらない主のことは。

2023年6月12日